

臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所

先生各位

平成 23 年 8 月

A-11-17

新規実施項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記の検査項目を新たに受託開始致しますので、ご利用頂きたくご案内致します。
今後とも引き続きお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

◆実施日 平成 23 年 8 月 2 日(火) ご依頼分より

◆新規項目

項目コード	21610	21620	21630
項目名	トピラマート	ラモトリギン	レベチラセタム
検体量(保存方法)	血清 0.3mL(凍結) *分離剤入り採血管使用不可		
検査方法	LC-MS/MS 法		
有効治療濃度	(未設定) $\mu\text{g/mL}$		
所要日数	4~7 日		
特定薬剤治療管理料	470 点		
主な商品名	トピナ	ラミクタール	イーケプラ

次面もご覧下さい。

【トピラマート及びラモトリギン】

トピラマート及びラモトリギンはそれぞれ 2007 年及び 2008 年に認可を受けた抗てんかん薬です。

トピラマートは①電位依存性ナトリウムチャネル抑制作用、②電位依存性 L 型カルシウムチャネル抑制作用、③AMPA (α -Amino-3-hydroxy-5-methylisoxazole-4-propionic acid) / カイニン酸型グルタミン酸受容体機能抑制作用、④GABA 存在下における GABA 受容体機能増強作用及び炭酸脱水素酵素阻害作用により成人における抗けいれん作用を示します。

また、ラモトリギンは Na⁺チャネルを頻度依存的かつ電位依存的に抑制することによって神経膜を安定化させ、グルタミン酸等の興奮性神経伝達物質の遊離を抑制することにより抗けいれん作用を発揮し、小児にも投与が認められています。

トピラマートは他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用療法、ラモトリギンはさらに強直間代発作や Lennox-Gastau 症候群における全般発作に関する併用療法にも効能が認められています。

本薬剤の血中濃度を測定し適正な投与量を得ることは、十分な治療効果を得るためや副作用の発現を回避するために重要と考えられます。

また、腎クリアランスの低下により薬剤排泄の延長が認められますので、腎機能が低下している患者や高齢者に対して投与する場合などには、特に血中濃度の測定をおすすめします。

【レベチラセタム】

レベチラセタムは 2010 年 9 月に薬価基準に記載された抗てんかん薬であり、他のてんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用療法に効果を有する薬剤です。

本剤は、腎排泄型の薬剤であることから、腎機能障害のある患者や腎機能が低下している可能性がある高齢患者において、本剤の排泄が遅延する可能性があります。さらに重度の肝機能障害のある患者では、合併する腎機能低下の状態を慎重に評価し、投与量を調節することが必要とされています。

また、まれに副作用として中毒性表皮壊死症(Lyell 症候群)、重篤な血液障害、肝不全・肝炎、膵炎などがあらわれることがあるといわれています。

レベチラセタムの治療効果を得るためには、個人差を考慮して投与初期の血中濃度を測定すること、さらに投与期間中の適正な投薬量を決定することが有用な指標となります。